

# 北一ヴェネツィア美術館 展示室ガイド



北一ヴェネツィア美術館は、イタリアの古都・ヴェネツィアの古くから受け継がれてきた、豊かで潤いのある文化をご紹介します美術館として1988年に開館致しました。

建物の外観は、ヴェネツィアに現存する18世紀の貴族の邸宅「グラッシィ宮殿」をモデルに建てられました。また、館内はヴェネツィア文化の成熟期である18世紀頃の様々な宮殿の建築様式を取り入れて再現しています。

展示室では、一千年の歴史を誇るヴェネツィアガラスの工芸品を始め、イタリアの伝統的な家具や調度品を常時約3000点展示し、四季折々の貴族の暮らしや文化をご紹介します。また、世界を舞台に活躍するヴェネツィアのガラス作家達の卓越した作品も多数展示しています。

水の都・ヴェネツィアで育まれた、華やかな宮廷文化と美しいガラスの世界をお楽しみ下さい。

<季節ごとに展示内容が替わります>

●開館時間 10:00～17:00 (16:30最終入館)

●入館料 一般 ¥500 (65歳以上の方は¥350)  
大学生 ¥350 高校生 ¥300 中学・小学生 ¥100  
※割引の併用はできません。

●<http://www.venezia-museum.or.jp> ●E-mail: [venezia-museum@kitaichiglass.co.jp](mailto:venezia-museum@kitaichiglass.co.jp)

北一ヴェネツィア美術館 北海道小樽市堺町5-27 TEL:0134-33-1717

# 2階 展示室



- 常設展示室① 応接間
- 常設展示室② 宝の間
- 常設展示室③ 貴族の居間
- 常設展示室④ 書斎
- 常設展示室⑤ 家族の居間

## 国賓用ゴンドラ

「水の都」ヴェネツィアの人々にとって、船は欠かせない交通手段です。中でも、狭い運河を行き来できるゴンドラは、多くの人々に利用されてきました。こちらのゴンドラは国賓用のゴンドラで、イギリス王室のチャールズ皇太子や故ダイアナ妃をはじめ、世界の国賓の方々やヴェネツィアを訪問した際にお乗りになった、大変貴重なゴンドラです。



## 常設展示室①「応接間」

応接間は貴族の宮殿や邸宅において玄関の役目を持っています。館を訪れた客人は、主人の元に案内されるまでこの部屋で待ちます。そのため、主人は応接間に美術品を飾り、客人の目を楽しませるように工夫を凝らしました。

## 常設展示室②「宝の間」

“Wunderkammer(ヴンダーカンマー)”は、北欧から始まり、イタリアにその文化が到達する頃には、主にアンティークや一風変わったオブジェ、様々な芸術品、考古学的発掘物など宝物を収集する部屋となりました。室内には、ヴェネツィアガラスの伝統技法で作られた“ミッレ・フィオーリ”が約2,500点飾られています。



## 常設展示室③「貴族の居間」

宮殿で最も広い居間は、主人が客人を招いて正式なディナーをふるまったり、談話をしたりなど楽しいひとときを過ごす部屋です。室内の両端に配された金のミラーコンソールなどの様々な家具調度品で装飾され、豪華な室内となっています。

季節の暮らしとテーブルコーディネート

## 常設展示室④「書斎」

『マルコポーロの夢』をテーマに、書斎、執務室として、世界を相手に貿易を行っていたヴェネツィア貴族の仕事部屋を再現しています。商談や打合せにも使用する部屋で、書棚や書籍、地図など、当時のヴェネツィア商人の執務室にふさわしい演出をしています。



## 常設展示室⑤「家族の居間」

家族の居間として使用されると同時に、主人や女主人が友人を招いて会話を楽しんだり、音楽家の演奏を聴きながらお茶を飲んだりしました。居間に置かれたソファは家族の中心となり、冬の寒い日には、子ども達が家庭教師と遊ぶかわらで、大人達は暖炉で温まりながら寛いだのでした。

# 3階 展示室



- 常設展示室⑥ ムラノガラス巡回展
- 常設展示室⑦ 家族の食堂
- 常設展示室⑧ 貴族の食堂
- 常設展示室⑨ バスルーム
- 常設展示室⑩ 寝室
- 特別企画展

## 常設展示室⑥「伝統技法の間」

ヴェネツィアガラスの最も充実したコレクションを持つ『ムラノガラス美術館』。当館では、「ヴェネツィアの豊かな中世貴族文化をご紹介します」という理念に基づき、千年の歴史を持つヴェネツィアガラスを系統的に保存していくため、ムラノガラス美術館が所蔵する15～20世紀にムラノ島で制作された貴重な作品をヴェネツィアの工房に依頼し、複製致しました。ヴェネツィアの職人たちが当時のガラス作品の色彩や技法を研究し、現代に甦らせた作品群は、ヴェネツィアガラスの伝統的な美しさと技術の素晴らしさを余すところなく感じさせてくれます。



## 常設展示室⑦「家族の食堂」

宮殿の中での食堂は、家族が友人を招いてパーティーをしたり、夜通し宴会をするような部屋でした。ローマ帝国の滅亡と共にこのような贅沢な部屋は貴族の邸宅から消え、食事を作る台所が食堂の役割を担うようになります。その後ルネサンスの時代に再び部屋の役割が分かれたとみられ、食堂は貴族の邸宅にふさわしい形になりました。

バロック時代になると、食堂は主人と家族が親密に過ごす場所となり、招待した少人数の客人と共に楽しい時間を過ごす場所になっていきました。

## 常設展示室⑧「貴族の食堂」

貴族が親しい友人達と談話し、優雅な時間を過ごすための部屋です。そのため、豪華な居住性が求められていました。家具はフランスのルイ15・16世の時代にヨーロッパで流行したバロック様式を取り入れ、イタリアで生産されたヴェネツィアン・バロックで統一されています。

季節の暮らしとテーブルコーディネート



## 常設展示室⑨「バスルーム」

過去においてバスルームは様々な機能と意味合いを持っていたとされ、現代のように1つの部屋に様々な機能が集合しているものではなく、また、部屋の持つ意味合いも違い、歴史的な再現は困難であるとされています。こちらの展示室では、宮殿にバスルームが最初に作られた1900年代の大理石の浴槽を再現しつつ、18世紀頃の貴族のトイレ、化粧台なども、現代に近い形で1つの部屋に集めて展示しています。

## 常設展示室⑩「寝室」

貴族がプライベートな時間を過ごす寝室は、単に寝るための部屋ではなく、友人や恋人を招き談話する場所でもありました。そのため、快適な空間かつ部屋の持ち主の好みも反映された、華麗な装飾が追求されました。テーブルの上には、貴族が朝夕に嗜んだという“チョコレート”とその食器のスタイルが並んでいます。心のゆとりを大切に生活を楽しんでいた、ヴェネツィア貴族の豊かな暮らしを垣間見ることが出来ます。

<季節のチョコレートテーブル>

